

◆人文学研究所の事業

人文学研究所は1963年、人文学研究領域相互の活発な研究活動を支援することを目的に神奈川大学の附属研究所として設立されました。

人文学研究所の主な活動は

- ① 人文学に関する研究及び調査
- ② 研究資料の収集及び整理
- ③ シンポジウムや講演会開催
- ④ 研究及び調査成果の発表のための刊行物の発行

などを中心としています。具体的には、人文学系の各種テーマによる共同研究グループの共同研究を大きな柱に様々なシンポジウム・講演会を開催し、また、『神奈川大学人文学研究叢書』を発行するなど多彩な活動を行っています。

◆人文学研究所の研究活動

人文学研究所の活動は、共同研究グループによる調査・研究活動と、国外研究機関との学術交流やシンポジウムの開催の二つに分けることができます。本研究所設立以来、活動を展開した共同研究グループは総数30グループ以上を数えます。

【人文学研究所共同研究グループ一覧】

(2024.7)

No.	名 称	研究テーマ
1	日中関係史	近代以降現在までの日中関係の諸問題
2	言語変異研究	日中異文化の語用論研究
3	〈身体〉とジェンダー	近代以降、大きく転換した身体表象の変容と、その文化的・社会的メカニズムとの関わりについて、なかでもジェンダーという視点に注目しながら、地域や時代を横断し、多様なテキストをもとに考察する。
4	自然観の東西比較	風土を基礎にした神と自然についての歴史的、思想的な比較研究
5	日中韓対照言語研究	ヴォイス・テンス・アスペクト・モダリティの対照研究
6	各国近代文学の研究	1. 各国の近代文学の対象・方法・成果を比較・検討する 2. 各国の近代文学（研究）の社会的・歴史的配置を研究する 3. 「新しい文学研究」の方法論・実践を模索する
7	知覚認知システムの普遍性と多様性	人の知覚・認知の仕組みについて、研究することを目標としており、特に、知覚の様相や認知的様相に共通な普遍性とそれらの様相の相互効果によって展開した多様性を現象・行動観察や計算論的解析などを通して明らかにする。
8	学びの見える化	「実学教育」の概念化及び授業モデル開発を通じた学びの見える化を行う。
9	芸術（アート）と物語の交雑／発信力	広義の芸術（アート）について、物語との交雑を視野に入れて、調査・研究を行う。
10	神奈川の地域と文化	横浜をはじめとする神奈川県内のさまざまな地域の文化・歴史・民俗・地理・観光の諸相について、本学に集う様々な領域（観光学、考古学、地理学、民俗学、歴史学など）の研究者たちが集い、それぞれの強みを活かしつつ他の領域の手法からも刺激を受けながら、学際的に探究していく。
11	観光と美術	美術とは、人間が社会を築き、それぞれの歴史、宗教、生活、自然環境から生み出された表現である。最近では地域の歴史遺産や伝統工芸は重要な観光資源としてにわかに注目されてきているが、その活動は一過性のものが多い。本研究グループは、美術（特にファインアート）や工芸デザインの分野に特化し、観光における功罪を再認識し、その正負の効果を体系化する。美術・工芸デザインの真の美的価値を評価できるアート・リテラシーを向上させることで、観光での活用を持続可能なものにすることが目的である。
12	言語景観と多文化共生	多文化共生社会における情報発信を再考する
13	国際日本研究	日本文化（社会や歴史、文学、美術、宗教、メディア等を含む）を国際的な視野で、学際的かつ総合的に研究すること

14	スペイン語圏トランスナショナル・ヒストリー	「国民国家」としてのスペインの来し方行く末を再考する。 ①ミクロの視点で、スペイン国内の歴史的・文化的多様性の実態を再検討する。 ②マクロの視点で、世界に広がるスペイン語文化圏の比較研究を行う。
15	ホスピタリティの人文学的検討	「ホスピタリティ」は、多くの場合、単なる「おもてなし」や「マナー教育」の域で語られることが多い。しかし、現代社会では、人間性が強調されつつも、同時に非人間化される事例が散見される。制度や組織を発展させていく際、本来は人間性を生かすべきものが、マニュアル化、デジタル化といった形で非人間化されていることも多い。このような時代背景の中、次世代を生きる学生に対して生きる指針を示す意味でもホスピタリティを人文学的に検討することが求められているのではないだろうか。

※活動休止中「越境する比較文化」「NCH 新聞研究会」「ヒト身体の文化的起源」「臨床心理学研究グループ」

◆人文学研究所・2024 年度（前期）講演会

敬省略

No.	日時	担当先生	講演者	テーマ	所属（職業）
1	6 月 19 日（水）	ジェームズ・ウェルカー	ジェイソン・G・カーリン	Media Incitements in Japan: Social Contagion, Self-Harm, and Freedom of Expression	東京大学大学院情報学環教授
2	7 月 11 日（木）	松本和也	仲田恭子	演劇をつくりつづけるⅡ——演出・身体・地域	アートひかり（演劇ユニット）
3	7 月 17 日（水）	ジェームズ・ウェルカー	美水彩加	Doing Ethnography in the Wake of the Displacement of Transnational Sex Workers in Yokohama: Sensuous Remembering	ブリティッシュ・コロンビア大学 アジア学科教育助教
4	7 月 19 日（金）	吉澤達也	本山宏希	イメージ心理学 1	茨城大学人文社会科学部人間文化学科准教授

◆学術交流とシンポジウムの開催 2016 年～2023 年

- ◇国際シンポジウム「中国古典小説研究 30 年の回顧と展望」(Studies on Chinese Classic Novels Retrospect for 30 Years and Prospect for the Future) 2016 年, 主催
- ◇「ホスピタリティと人文学の役割——足元からの多文化共生——」
【第一部】公開シンポジウム 【第二部】公開講演会 2016 年, 主催
- ◇国際シンポジウム「クィアな変容・変貌・変化（トランスフィギュレーション）：アジアにおけるボーイズラブ（BL）メディア」(Queer Transfigurations: International Symposium on Boys Love Media in Asia) 2017 年, 共催
- ◇国際シンポジウム「デザインミュージアムのヴィジョン」2022 年, 主催
- ◇国際シンポジウム「Literature Goes to School」2022 年, 主催
- ◇国際シンポジウム ワークショップ「音楽分野の日中関係史を考える」2023 年, 主催
- ◇国際シンポジウム「関東大震災研究についての報告&討論会——非文字資料と歴史」2023 年, 共催

◆人文学研究所の出版物

人文学研究所は研究所の諸活動によって得られた成果を社会に還元するために『人文学研究所報』を年に 2 回発行しています（2024 年度 第 72・73 号）。国外研究機関との学術交流の成果としては、浙江大學日本文化研究所との共編で『中日文化論集』（1991～1999, 中国語）を発行してきました。さらに、共同研究グループの研究成果をまとめた学術書シリーズ『神奈川大学人文学研究叢書』を刊行しています。

人文学研究所共同研究グループ一覧

2024 年度

No.	名 称	研究テーマ	活 動 計 画	代表者	メンバー	人数	叢書
1	日中関係史	近代以降現在までの日中関係の諸問題	1. メンバー各自の関心に基づく研究会の開催 2. 学外研究者の講演，研究交流 3. 日中相互の留学生に関する調査研究 4. 在日華僑に関する調査研究 5. 中国と東アジアにおける旧日本租界・居留地に関する調査研究	孫 安石	孫 安石・松本安生・村井寛志・賈 海涛・柳澤和也・大庭三枝 〔名誉〕大里浩秋・鈴木陽一 〔学外〕荒川 雪・内山 籐・川島 真・川尻文彦・菊池敏夫・吉川良和・周 一川・中村みどり・潘 吉玲・劉 建雲・櫻井良樹・郭 夢焱・見城梯治	21	有 2025 年度 予定
2	言語変異研究	日中異文化の語用論研究	1. 日中敬語・ボライトネスに関する研究史の比較 2. 日中発話行為の時代変化に関する事例調査 3. 日中言語政策が言語行動に与えた影響に関する史料調査	彭 国躍	彭 国躍・加藤宏紀・夏 海燕 〔非〕楊 洲	4	2024 年度 は無
3	〈身体〉とジェンダー	近代以降、大きく転換した身体表象の変容と、その文化的・社会的メカニズムとの関わりについて、なかでもジェンダーという視点に注目しながら、地域や時代を横断し、多様なテキストをもとに考察する。	2023 年度に発行した叢書『動物×ジェンダー——マルチスピース物語の森へ』の反省をもとにしつつ、次の叢書発行を目指して、2024 年度は研究会を多く開き、ジェンダーに関わる知見を共有しながら、新たな主題を浮かびあがらせていきたい。引き続き、学内・学外から多くの新メンバーを集め研究会を重ねていきたい。	熊谷謙介	熊谷謙介・クリスチャン ラットクリフ・鈴木宏枝・秋山珠子・笠間千浪・角山朋子・冨塚亮平・高江州昌哉 〔名誉〕山口ヨシ子 〔非〕村井まや子・岡部杏子 〔学外〕信岡朝子・古屋耕平・菅沼勝彦・江崎聡子・小松原由理・中村みどり・田中里奈・菊間晴子	19	2024 年度 は無
4	自然観の東西比較	風土を基礎にした神と自然についての歴史的、思想的な比較研究	1. 研究テーマに関する調査・研究・資料蒐集 2. メンバーを中心とした研究会の開催（4 回程度を予定） 3. 外部の研究者による講演会の開催（1 回を予定）	上原雅文	上原雅文・小熊 誠・坪井雅史・前田禎彦・山本信太郎・中村隆文・ブライアン ルパート・角南聡一郎・矢崎佐和子 〔名誉〕伊坂青司・鳥越輝昭 〔学外〕新田泰生	12	2024 年度 は無
5	日中韓対照言語研究	ヴォイス・テンス・アスペクト・モダリティの対照研究	1. メンバーによる研究発表 2. 研究関係者による講演会の開催 3. 論文の投稿・外部学会での発表の支援	尹 亨仁	尹 亨仁・山田昌裕・高木南欧子・佐藤裕美・鈴木慶夏・佐藤 梓・李 貞和	7	2024 年度 は無
6	各国近代文学の研究	1. 各国の近代文学の対象・方法・成果を比較・検討する 2. 各国の近代文学（研究）の社会的・歴史的配置を研究する 3. 「新しい文学研究」の方法論・実践を模索する	1. 研究テーマに即した調査・研究の実施 2. 各メンバーの関心に基づく研究会の開催 3. 学外研究者の講演，研究交流	松本和也	松本和也・熊谷謙介・水川敬章 〔非〕岡部杏子 〔学外〕古屋耕平・中村みどり・吉田遼人	7	2024 年度 は無
7	知覚認知システムの普遍性と多様性	人の知覚・認知の仕組みについて、研究することを目標としており、特に、知覚の様相や認知的様相に共通な普遍性とそれらの様相の相互効果によって展開した多様性を現象・行動観察や計算論的解析などを通して明らかにする。	・共同研究遂行 ・公開講演会開催（随時） ・研究報告会開催（2025 年 2 月）	吉澤達也	吉澤達也・前原吾朗・松永理恵・麻生典子	4	2024 年度 は無

8	学びの見える化	「実学教育」の概念化及び授業モデル開発を通じた学びの見える化を行う。	本年度は、実学教育の実質化による教育的価値創造の原理を構築すること ○実学教育の概念化や構成要素の抽出を行う。 ○様々なライブの「実学教育」を分類し、教育方法の普遍化と体系化を行う。 ○実学教育の分野横断型による授業モデルの開発と検証などを行う。 以上から、「実学教育」の理論と実践、知識と体験など「学びを見える化」を行う。	齊藤ゆか	齊藤ゆか・麻生典子・太田早織・百瀬容美子・山口太郎・鈴木英夫・中川理絵・寺嶋正尚 〔学外〕安藤めぐみ・森 和夫・西村美東士・豊福彬文	12	2024 年度は無
9	芸術（アート）と物語の交雑／発信力	広義の芸術（アート）について、物語との交雑を視野に入れて、調査・研究を行う。	1. 研究テーマに即した調査・研究・作品制作／上演の実施 2. 各メンバーの関心に基づく研究会の開催 3. 学外研究者の講演、研究交流	水川敬章	水川敬章・松本和也・藤澤 茜・糸 汐里 〔学外〕伏木 啓	5	2024 年度は無
10	神奈川の地域と文化	横浜をはじめとする神奈川県さまざまな地域の文化・歴史・民俗・地理・観光の諸相について、本学に集う様々な領域（観光学、考古学、地理学、民俗学、歴史学など）の研究者たちが集い、それぞれの強みを活かしつつ他の領域の手法からも刺激を受けながら、学際的に探究していく。	これまでの研究会の内容をふまえてメンバーから提出された原稿をもとに、叢書刊行に向けて編集作業をすすめて、年度内に叢書を刊行することをめざす。既にすべての執筆者が完成原稿を提出済である。2024 年 4 月末現在、再校の確認・修正が完了し、三校の出来を待っている段階で、7 月頃までには校了をむかえることを目指して、出版社と連携して、各執筆者とも頻繁かつ緊密にやりとりをしながら、編集作業を進めていく。	平山 昇	平山 昇・山本志乃・柏木 翔・山口太郎・島川 崇・安室 知・高井典子・崔 瑛・中林広一・小泉 諒・清水和明 〔非〕木村悠之介・松本和樹・伊藤泉美 〔学外〕市川智生・太田原 調・原 淳一郎・吉田律人・青木祐介・大矢悠三子	20	有 2024 年度 予定
11	観光と美術	美術とは、人間が社会を築き、それぞれの歴史、宗教、生活、自然環境から生み出された表現である。最近では地域の歴史遺産や伝統工芸は重要な観光資源としてにわかに注目されてきてはいるが、その活動は一過性のものが多い。本研究グループは、美術（特にファインアート）や工芸デザインの分野に特化し、観光においての功罪を再認識し、その正負の効果を体系化する。美術・工芸デザインの真の美的価値を評価できるアート・リテラシーを向上させることで、観光での活用を持続可能なものにするのが目的である。	1. 国内外の観光地における美術・工芸デザインの活用調査 2. 美術館における観光客誘致の取り組み事例調査 3. 学芸員の役制の変化と観光に与える影響 4. ガイドの質の向上のための高等教育の役割 5. 観光学的アプローチによる美術・工芸デザイン史の再考 6. 美術の視点からの、変えるべきもの、変えないべきものとは 7. 美術分野における観光の功罪の整理 ◎今年度は、主に環境活動家が美術作品への破壊行為を行うことで社会にアピールをしたり、アートと称して街で落書きをしたりする事例が散見されるようになったが、このようなインモラルな行為に対して、アートとの明確な線引きを行うために、観光と美術からどのようなメッセージを発信できるか検討する。このテーマでシンポジウムを開催したい。また、「観光資源」という用語に代わりうる適切な用語の検討も引き続き行う。	鳥川 崇	鳥川 崇・角山朋子・シェラー クインタナ 〔学外〕増子美穂・岡本岳大	5	検討中 (2025 か 2026 年度)
12	言語景観と多文化共生	多文化共生社会における情報発信を再考する	本共同研究グループは、2020 年度から 2022 年度まで学内の共同研究助成金の支援を受けたため、その成果公開が求められており、2024 年度の図書公開を予定している。「多文化共生社会における情報発信を再考する」という図書題目のもと、メンバーは各論考の執筆に着手しており、今後は図書全体の構成等を見直す計画である。	鈴木慶夏	鈴木慶夏・佐藤 梓・佐藤裕美・高木南欧子・尹 亨仁 〔非〕李 忠均・小林 潔 〔学外〕鈴木幸子・由川美音・堤 明子	10	有 2024 年度 予定

13	国際日本研究	日本文化（社会や歴史、文学、美術、宗教、メディア等を含む）を国際的な視野で、学際的かつ総合的に研究すること	講演会 2024年5月15日（水）15：30～17：00 M5030 講師：Esther Lovely, Kanagawa University テーマ：Changes in Language Attitudes, Use, and Maintenance over Time: A Longitudinal Case Study Investigation of Korean Australians 2024年6月19日（水）15：30～17：00 M5030 講師：Jason G. Karlin, University of Tokyo テーマ：Media Incitements in Japan: Social Contagion, Self-Harm, and Freedom of Expression 2024年7月17日（水）15：30～17：00 M5030 講師：Ayaka Yoshimizu, University of British Columbia テーマ：Doing Ethnography in the Wake of the Displacement of Transnational Sex Workers in Yokohama: Sensuous Remembering 2024年10月16日（水）15：30～17：00 M5030 講師：Junxiao Leng, University of Tokyo テーマ：From Ūman ribu (women's lib) to the Shelter Movement: Morphing Feminist Identities in Postwar Capitalist Japan 2024年11月20日（水）15：30～17：00 M5030 講師：Christian Ratcliff, Kanagawa University テーマ：Bad Poems on Purpose, in Diaries That Aren't Diaries: Communicating Discontent at the Japanese Court 2024年12月18日（水）15：30～17：00 M5030 講師：Marco Tinello, Kanagawa University テーマ：East Asian and Pacific Histories from the Perspective of the Unequal Treaties 2025年1月15日（水）15：30～17：00 M5030 講師：Andrea Castiglioni, Nagoya City University テーマ：Mobilizing Sacred Geographies: The Medieval Transmission of Kumano Sanzan Cult in the Tōhoku Region	ジェームズ ウェルカー	ジェームズ ウェルカー・ステファン ブッヘンベルゲル・ソニア チック・大島希巳江・ティネッロ マルコ・クリスチャン ラットクリフ・ワイイー ロ・ブライアン ルバート・シェラー クインタナ・コオリ・ウォレス〔学外〕ステファン ヘーブ・冷 君曉	12	2024 年度は無
14	スペイン語圏トランスナショナル・ヒストリー	「国民国家」としてのスペインの来し方行く末を再考する。 ①ミクロの視点で、スペイン国内の歴史的・文化的多様性の実態を再検討する。 ②マクロの視点で、世界に広がるスペイン語文化圏の比較研究を行う。	2024年度は、参加メンバーによる個別の研究発表を行いながら、研究グループの今後の研究の方向性を見定め、メンバーの拡大へ向けた討議を行う。 研究テーマの①について。スペイン国内で、固有の文化を持つとされる地域の歴史的背景についての概略の整理を行う。 研究テーマの②については、真正面から扱えるメンバーが現状では参加していないので、ラテンアメリカ地域の研究者を外部から招聘し、研究報告を行ってもらう。ラテンアメリカを専門とする研究者との意見交換を実施しながら、今後の比較研究の具体的な進め方について考察する。 その他、必要に応じて、本研究テーマに関連する研究発表あるいは講演を行ってもらう予定である。	黒田祐我	黒田祐我・菊田和佳子〔学外〕立石博高	3	2024 年度は無

15	ホスピタリティの人文学的検討	「ホスピタリティ」は、多くの場合、単なる「おもてなし」や「マナー教育」の域で語られることが多い。しかし、現代社会では、人間性が強調されつつも、同時に非人間化される事例が見られる。制度や組織を発展させていく際、本来は人間性を生かすべきものが、マニュアル化、デジタル化といった形で非人間化されていることも多い。このような時代背景の中、次世代を生きる学生に対して生きる指針を示す意味でもホスピタリティを人文学的に検討することが求められているのではないだろうか。	①ホスピタリティの根源的な意味を探るために、聖書の中に現れるホスピタリティの概念を再考 ②仏教（特に密教）と神道における対象との一体関係という概念とホスピタリティとの関連性の検討 ③人材育成分野におけるホスピタリティの価値 ④人材育成分野において真のホスピタリティを実践している事例の洗い出し ⑤「精神性の高い旅」の検討	島田由香	島田由香・島川 崇・崔 瑛 〔学外〕末吉孝弘・崎本武志	5	2024 年度は無
----	----------------	---	--	------	--------------------------------	---	-----------

※活動休止中「越境する比較文化」「NCH 新聞研究会」「ヒト身体の文化的起源」「臨床心理学研究グループ」
〔名誉〕名誉教授 〔非〕非常勤講師 〔非助〕非常勤助手 〔学外〕学外研究者

2024 年度は活動休止				
名 称	研究テーマ	活 動 計 画	代表者	
越境する比較文化	比較文学・文化の方法論を用いた研究を行う。	2024 年度は活動休止	ステファン ブッヘンベルゲル	
NCH 新聞研究会	神奈川県が所蔵する NCH (North China Herald) の新聞 (ONLINE 版) の日本、中国、韓国、東南アジア諸国に関連する新聞記事の研究。	2024 年度は活動休止	孫 安石	
ヒト身体の文化的起源	人間の身体を系統的に遡り、その根源を考察することで、身体が持つ機能的な意義を検討する。	2024 年度は活動休止	衣笠竜太	
臨床心理学研究グループ	臨床心理学に関する包括的研究	2024 年度は活動休止	杉山 崇	

神奈川大学人文学研究所叢書一覧

人文学研究所

No.	年度	タ イ ト ル	出版社
1	1982	悲劇——その諸相と人間観	神奈川新聞社
2	1984	日本文化——その自覚のための試論	神奈川新聞社
3	1985	続 日本文化——伝統と近代化の再検討	神奈川新聞社
4	1986	民族と国家——国際関係の視点から	神奈川新聞社
5	1987	「近代」の再検討——ポスト・モダンの視点から	神奈川新聞社
6	1988	いま・日本と中国を考える——日中比較文化論	神奈川新聞社
7	1990	「民族と国家」の諸問題	神奈川新聞社
8	1990	ロマン主義の諸相	神奈川新聞社
9	1991	インディアスの迷宮——1492～1992	勁草書房
10	1992	聖と俗のドラマ	勁草書房
11	1994	秘密社会と国家	勁草書房
12	1995	ヨーロッパの都市と思想	勁草書房
13	1996	国家とエスニシティ——西欧世界から非西欧世界へ	勁草書房
14	1997	芸能と祭祀	勁草書房
15	1998	笑いのコスモロジー	勁草書房
16	1999	ロマン主義のヨーロッパ	勁草書房
17	2000	ジェンダー・ポリティクスのゆくえ	勁草書房
18	2001	日中文化論集——多様な角度からのアプローチ	勁草書房
19	2002	歴史と文学の境界——〈金庸〉の武侠小説をめぐる	勁草書房
20	2003	「明六雑誌」とその周辺——西洋文化の受容・思想と言語	御茶の水書房
21	2004	新しい文化のかたち——言語・思想・くらし	御茶の水書房
22	2005	中国における日本租界——重慶・漢口・杭州・上海	御茶の水書房
23	2006	世界から見た日本文化——多文化共生社会の構築のために	御茶の水書房
24	2007	在日外国人と日本社会のグローバル化——神奈川県横浜市を中心に	御茶の水書房
25	2008	表象としての日本——移動と越境の文化学	御茶の水書房
26	2009	ジェンダー・ポリティクスを読む——表象と実践のあいだ	御茶の水書房
27	2009	中国・朝鮮における租界の歴史と建築遺産	御茶の水書房
28	2010	世界の色の記号——自然・言語・文化の諸相	御茶の水書房
29	2011	〈悪女〉と〈良女〉の身体表象	青弓社
30	2011	グローバル化の中の日本文化	御茶の水書房
31	2012	植民地近代性の国際比較——アジア・アフリカ・ラテンアメリカの歴史経験	御茶の水書房
32	2012	戦後日本と中国・朝鮮——ブランゲ文庫を一つの手がかりとして	研文出版
33	2013	色彩の快——その心理と倫理	御茶の水書房
34	2013	先住民運動と多民族国家——エクアドルの事例研究を中心に	御茶の水書房
35	2014	近現代中国人日本留学生の諸相——「管理」と「交流」を中心に	御茶の水書房
36	2014	近代日本の宗教論と国家——宗教学の思想と国民教育の交錯	東京大学出版会
37	2015	〈68年〉の性——変容する社会と「わたし」の身体	青弓社
38	2015	文化を折り返す——普段着でする人類学	青娥書房
39	2016	破壊のあとの都市空間——ポスト・カタストロフィーの記憶	青弓社
40	2017	帝国とナショナリズムの言説空間——国際比較と相互連携	御茶の水書房
41	2017	新・新猿楽記——古代都市平安京の都市表象史	現代思潮新社
42	2018	中国人留学生と「国家」・「近代」・「愛国」	東方書店
43	2018	自然・人間・神々——時代と地域の交差する場	御茶の水書房
44	2019	男性性を可視化する——〈男らしさ〉の表象分析	青弓社
45	2020	近世村落の領域と身分	吉川弘文館
46	2021	明治から昭和の中国人日本留学の諸相	東方書店
47	2021	アフリカン・アメリカン児童文学を読む	青弓社
48	2022	学びの見える化の理論と実際——教育イノベーションにむけて	勁草書房
49	2022	A Sense of Plausibility in vision and music perception	朝倉書店
50	2023	動物×ジェンダーマルチスピース物語の森へ	青弓社
51	2023	翻訳としての文学——流通・受容・領有	水声社